

「働き方改革」を存分に利用し

会社にいながら

★自分のライフスタイル★を

自由に設計しよう！

◆Vol.10◆

副業解禁の時代が来た！



落合理

■ 推奨環境 ■

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader を無料でダウンロードしてください。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

■ 著作権について ■

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は落合理に属します。著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。 著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。このレポートのご利用は自己責任でお願いします。このレポートの利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

この度は私のレポートをダウンロードいただきましてありがとうございます。
ございます。

政府肝入りの改革事業の一つである「働き方改革」

皆さんうまく使って自分のライフスタイルを改善していますか？

フレックス、テレワーク、副業解禁、等々、魅力のある制度改革が進められています。

この改革に乗り遅れたら損です。

存分に使って自分のライフスタイルを改善していきましょう。

このメルマガでは、働き方改革で改善される制度をご紹介します。

皆さんが利用するためのきっかけとなればと思います。

今回は、「**副業解禁の時代が来た！**」についてご紹介したいと思います。

過去のレポート集

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.1◆会社のビジョンの共有

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.2◆3つの勤務時間制度を活用しよう

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.3◆有給休暇は自分と家族のために！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.4◆テレワークをはじめよう！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にしながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.5◆日々の仕事に対する意識改革！

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.6◆気になる海外の働き方改革
【アメリカの場合】

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.7◆気になる海外の働き方改革
【ヨーロッパの場合】

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.8◆気になる海外の働き方改革
【中国の場合】

■ 「働き方改革」を存分に利用し会社にながら★自分のライフスタイル★を自由に設計しよう！ ◆Vol.9◆気になる海外の働き方改革
【北欧の場合】

1. 副業は解禁の時代に

いよいよ日本でも副業が解禁されました。正式に言うと 2018 年に厚生労働省が「モデル就業規則」（会社が就業規則を定める際に参考とする国のガイドライン）に「労働者は勤務時間外において他の会社等の業務に従事することができる」という項目を追加したのです！

今までは真逆で「許可なく他の会社等の業務に従事しないこと」だったのが、一体にどうして解禁に転じたのでしょうか？

元々、副業禁止の理由としては、本業の会社との時間管理の分界点が不明確となることや、本業の会社の情報やスキルが流出することのリスク、などがありますが、最も大きな点は「会社 = あなたの人生」という考え方が染みついていた事にあると言えるでしょう。

今はもう大分状況が変わってきているようですが、昔は転職や離職というと「一族郎党からの破門」という感じでした。あなたの一生は会社と共にあり、会社があなたを守ってくれる、副業なんてもってのほかであり、会社から出て行った路頭に迷うというのが通説でした。

しかし、それは経済成長期までの話。がむしゃらに働けば働い

ただけ見返りが来ていた時代は終わりました。ここ数十年の右肩下がりの傾向から、会社もあなたをしっかりと守れなくなってきており、給与は横ばい、残業手当はつかない、それどころか早期退職や解雇通知まで出てくる始末です。

副業・兼業はこれから徐々に解禁されていくでしょう。今の仕事を続けながら、しっかりと副収入を得るために、あるいは失業のリスクを少しでも下げるために、などなど個別には由があると思いますが、政府の意図と会社の動向をしっかりと理解した上で行動するようにしていきましょう。

2. 政府の意図（働き方改革の狙い）

厚生労働省のホームページを見ると、「副業・兼業の促進に関するガイドライン」が2018年1月に制定されています。そこには単純に「副業・兼業を希望する者は年々増加傾向にある。副業・兼業を行う理由は、自分がやりたい仕事であること、スキルアップ、資格の活用、十分な収入の確保等さまざまであり、、、」としか書かれておりません。

これでは国の狙いがわかりませんね。政府の施策の元をたどっていくと、これは安倍内閣が掲げた『一億総活躍社会の実現』が元になっています。良く、ニッポンを元気にするために！とか言って謳われていますよね。

単純に言えば、少子超高齢化社会に向かっていく中で、日本の労働力人口がこれから右肩下がりになっていき、どうしても現時点では回復の見込みがないからです。

労働人口が減ると、生産性は上がりませんが国としての生産性も下がり国力は衰えていきます。しかも超高齢化社会で、2017年で約2.2人で一人の65歳以上の高齢者を社会保障で支えています。2065年以降は1.3人で一人を支えていかないとはいけない予測になっているのです！

出生率も伸び悩み、労働者一人に対して老人一人を支えるような時代がどうしても迫っているような状況です。さらに、日本は他国に比べて高齢化の度合いが大きく、その割に社会保障負担は低くなっています。

こうした世界の中で、最も高齢化が進む日本において、労働人口と生産性を維持するためには、現在の働く世代を柔軟にせざるを得ない状況にあると言えるでしょう。

逆に言えば、我々のように現役で働く世代が、自分達のマインドを変えていく必要があるということになります！

政府も、今の日本の状況によろしく制度で変革を行っていく事に重い腰を上げてきたということです。しかし、やはり遅い！遅すぎます！そして、制度の本意が伝わりづらいから、労働者はとまどい、どう動けばよいかわからず、むしろ今の会社にしがみつ়く人もいます。

政府は制度を変えれば仕事をしたというのが常ですが、制度をどのように使うのが日本にとって最も良いのか？ということを考えて、実行していかないとせつかくの制度が形骸化してしまいます。

しかしながら、最近では一般庶民もインターネットによって情報遮断から逃れられる世の中です。統計情報や世界の状況は一瞬にして出回る中で、日本政府も多くの情報を隠して政府だけで国民操作はできない時代です。

こうした時代には個人が自分で状況を判断し、賢く立ち回る必要があります。むしろ、政府は個人の自由を奪えなくなった今、個人にその責任を押し付けてきているともいえるでしょう。

いずれにしても、この状況はあなたにとってチャンスであると言えます。収入だけではなく人生の設計図も含めて、自分なりに考えて理想のライフスタイルを送るための準備をしましょう。

3. 会社の状況

政府のガイドラインは決まりましたが、実際に影響をもらうという会社は副業・兼業解禁に対しては様々な対応です。

概して、現時点では大手の有名な企業のいくつかは解禁が始まっています。しかしながら、2017年の統計では、まだおよそ23%程度の企業しか副業を認めていないとの状況です。

その最も大きな理由として、「職員のダブルワークによる長時間労働による時間と健康管理」が大きな不安要素としてあるようです。また、次に大きな理由が「情報漏えい」です。会社の技術や機密が副業によって外に漏れる可能性のリスクが大きいと懸念しているようです。

また、容認・推進している会社であっても、副業の対象が「個人のスキルアップにつながるもののみ」であるとか、「会社に迷惑をかけないこと（これは当たりまえですが）」とか、「業種を特定する」など情報漏えいなどに配慮した限定条件にしているところが多いようです。

但し、会社側も外での経験を個人のスキルアップにつなげて、今の会社に還元するという考え方が広まってきており、また公

務員の副業・兼業も徐々に許可されてきており、国内でも副業・兼業の波はこれからも拡大していく可能性はかなり大きいと言えます。

現時点では、会社側もトライアンドエラーの様相といったところでしょうか？

まさに、それはあなたにとってチャンスであるわけです。

4. どうしたら最適な副業が選択できる？

では、実際に副業解禁になって、どのような副業を選んだらいいのでしょうか？

それは人によって様々なパターンがあると思います。具体的には、以下のカテゴリーに分かれてくるのではないのでしょうか？

- ・ 本当にやりたい事をやる人
- ・ 副収入を得たい人
- ・ 趣味としてやりたい人
- ・ 他分野のスキルを得たい人

また、これらの目的はあるものの、実際にどんな副業をしたらいいのかわからない。あるいは、どんな副業があるのかもわか

らない。という人が多いのではないのでしょうか？

実際に、副業をやるとなると、全く違う業種をやるのは相当なパワーと勇気がいるのではないのでしょうか？

そうした一からの副業というよりも、既にあなたがこれまで仕事等で取得したスキルを使った副業が手っ取り早いですね。

本業に関係した情報漏えいが問題となっていますが、よほどの機密情報でない限りは、全く情報を他社や他人に出さないなんてことはあり得ませんよね？

むしろ、出しても良い部分は出して、出してはまずい部分は完全に密閉するくらいの検討や実施を行ってはいけないのでしょうか？

是非、まずは自分がこれまで得てきた職場経験や個人経験をベースとして考えてみましょう。あなたに何が出来るかということを書き出してみるのも役に立ちます！

手っ取り早く言えば、あなたがこれまで学んできた事をベースに副業を考える事が一番の近道になると思います。

全く経験がなくて初心者同然のあなたが、売り物をつくる、ということ自体が既に難関である場合には、次のネタを作成するのに相当の時間と手間がかかります。

一番良いのはあなたの今の日常を振り返ってもらい、そこにビジネスチャンスがあることを自らが発見してもらうことです。自分で新たに探したり、あるいは他人に言われるのでも参考にはなりますが、あなたが職業を選ぶときに高優先度となるものは、あなたの日常に潜んでいる事が多いはずです。

私も、今ブログやメルマガ等で少しずつ副業を始めているのですが、やはり自分の本業に関連していて、本業に迷惑をかけないテーマを選択しています。

あなたにもそうした分野が必ずあるはずです。そこをニッチに根気よく攻めて行く事で、ビジネスが成り立っていくと思います。やはり一朝一夕には物事はなりませんね。

5. これからの日本の副業

日本の働き方改革は始まったばかりであることは、既に何度も述べてきましたが、副業・兼業はその中でも最も日本にとってはチャレンジなテーマではないか？と思います。

これまで、ずっと会社=人生を過ごしてきた多くのサラリーマンにおいて、会社2=浮気というようなイメージもある人も多いと思います。

そんなイメージに浸っているほど、日本社会の抱える問題は小さいものではありません。少子化、超高齢化、移民問題、等の労働人口の問題はすぐそこにまで来ています。

おそらく、若い世代はどんどん副業文化になれていくでしょう。問題は今の中年以降の世代がどのように変化できるかにかかっているような気がします。

これから働き方改革によって、副業・兼業がますます解禁になって試行錯誤の中で広まりをみせていくこの状況がチャンスです。制度が出来上がってから、その上に乗るという方法もあるかと思いますが、それだけでは時間もかかります。

きちんとした情報によるインプットをしながら、自分の理想のライフスタイルを実現するために頑張っていきましょう。

■ 作者 : 落合理

■ メールアドレス : mail@samyuint.com

■ メルマガ名 : 働き方改革を上手に使って自分の理想のライフスタイルをつかもう

■ メルマガ URL :

<https://1lejud.com/stepmail/kd.php?no=JqOansjEv>